

千の葉の芸術祭 基本計画書

令和元年 11 月

千葉市・千の葉の芸術祭 実行委員会

目次

はじめに.....	3
1 開催概要	4
2 事業内容	5
2-1 写真芸術展	5
2-2 体験・創造ワークショップ	10
2-3 伝統文化と新しい文化の発信	12
3 市内の企画イベントとの連携.....	16
4 広報について	17
5 観覧料等について	18
6 輸送交通について	18
7 運営支援・市民参加	18
8 各種マークの申請.....	18
9 実施体制について.....	19
10 スケジュールについて	21

はじめに

2020年に東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、千葉市はオリンピック3競技、パラリンピック4競技の会場となっています。オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であると同時に「文化」の祭典でもあります。第2次千葉市文化芸術振興計画や東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた千葉市行動計画【2019年度版】にもあるように、東京2020大会は日本文化の魅力を世界に発信する絶好の機会であり、競技会場都市である千葉市には、国内外から多くの方々が来葉されることを見据えた文化プログラムの実施が期待されています。

また、千葉市では令和3年に市制100周年を迎えます。市制100周年事業として、本市の都市としての成長の歩みを振り返り、先人たちの業績に感謝をするとともに、市が日本の中で果たしてきた役割やその価値を見つめ直し、これを如何に未来へ継承、発展させていくのかを考え、行動につなげていく機会となるように取組みを行う予定であります。

このような祭典や記念事業が本市で開催される中、千葉市及び千の葉の芸術祭実行委員会は、文化芸術を人々の心に潤いをもたらす想像力や表現力を豊かにするだけではなく、人と人、人と社会のつながりを作るなど、私たちの日常生活を様々な形で豊かなものに変えていく力があるものと捉え、その文化芸術を通して市の魅力を国内外問わず広く発信するとともに、市民の皆様が千葉市の魅力を再発見していただき、文化芸術活動がより日常的な取り組みであることを感じていただけるような芸術祭の展開を目指し、検討を重ねてまいりました。

この度、その概要を「千の葉の芸術祭基本計画書」として取りまとめました。

千葉市が持つ魅力ある資源を活かし、これまで育ててきた自然や歴史に根差した固有の文化力と技術の進展によって生まれた新しい文化力を千の葉の芸術祭を通して表現することで、市の魅力を広く発信するとともに、市民の皆様が市の魅力が再認識され、そこから新たなつながりやきっかけが生まれるような芸術祭の開催に向けて、引き続き取り組んでまいります。

千葉市長 熊谷 俊人

「千の葉」という詩的な言葉から成る土地に住んでいることを、おそらく千葉市民の多くが意識したことがないでしょう。「千」はむろん、無数のとか、たくさんという意味であり、たくさんの葉っぱから成るのが千葉市なのです。

千葉市には何もない、特徴がないとよく言われますが、それは東京という世界的大都市に隣接し、それと比してということでしょう。確かに強い刺激の前では、繊細な違いや個性は見過ごされてしまいます。もちろん、何もないなんてことはありません。ここ千葉市には「たくさん」の「人たちがいて、それぞれがそれぞれの生活を、日々しっかりと営んでいます。他の誰とも違う個性的な「葉っぱ」として。

今の私たちに求められていることは、強い刺激を求めることではなく、微妙な違いに気づいたり、それを感じようとする態度なのではないでしょうか。そんな態度で周りを見返すと、代わり映えがしないと信じ込んでいた世界が、少しずつ、そして着実に変化していること、そして、その魅力にも気づくはずで、それは家庭でも、学校でも、会社でも、どんな場所でもそうでしょう。

多様で、繊細なアートの表現に触れることは、そうした態度を身につける上で、とても重要な役割を果たします。芸術祭が一人一人の違いやその魅力に気づききっかけとなり、そこから新しい関係が生まれ、私たちの世界が変化し始めたらと考えます。

今回の「千の葉の芸術祭」は、写真芸術を紹介する「写真芸術展」、感じながら考える創造の学びの場「体験・創造ワークショップ」、そして伝統と革新に取り組む「伝統文化・新しい文化の発信」の三部門で構成されます。「写真芸術展」では、写真表現に取り組むアーティストたちの作品を通して、私たちを取り巻く世界を新鮮な眼差しで見つめ直す契機を提供できたらと考えます。「体験・創造ワークショップ」では、生活者としての私たちが、プロフェッショナルな表現者から体験的に学ぶ機会を設けます。いくつかのワークショップでは、その成果も発表します。「伝統文化・新しい文化の発信」では、単なる目新しさではなく、私たちが大事にしてきたもの（=伝統）を、どのように未来に向けて発展させられるのか、その実験的な挑戦に注目して欲しいと思います。

多くの方たちにご参加いただき、千葉市の魅力に気づく機会に、そしてそれを発展させていく契機になればと考えます。

総合ディレクター 神野 真吾

1 開催概要

①芸術祭タイトル：千の葉の芸術祭

②芸術祭キーワード：変化 / CHANGE

③芸術祭コンセプト：アートでつながる アートでつなげる 自由なアートが人と社会をかえていく

④開催目的（レガシー）

- ・市制 100 周年を迎える前に、本市の「自然や歴史に根差した固有の文化力」と「技術の進展によって生まれた新しい文化力」を市民が再認識できる。
- ・「文化芸術の間口を広く、敷居を無くし、日常的な活動へと広げる取組」の機会を創出する。

⑤主催：千の葉の芸術祭 実行委員会

（構成団体：千葉市、公益財団法人千葉市文化振興財団、公益財団法人千葉市教育振興財団、千葉市文化連盟、公益社団法人千葉市観光協会、千葉市メディア芸術振興事業実行委員会）

⑥後援（今後依頼予定）：例 近隣自治体

⑦会期：千の葉の芸術祭 プレイベント 令和2年1月11日（土）、12日（日）
令和2年2月23日（日）

千の葉の芸術祭 本イベント期間 令和2年4月中旬～9月13日（日）

⑧会場：【写真芸術展】千葉市生涯学習センター、千葉市美術館、千葉市民ギャラリー・いなげ など
【体験・創造ワークショップ】千葉市生涯学習センター など
【伝統文化と新しい文化の発信】見浜園（幕張海浜公園）

⑨事業概要

（1）写真芸術展（会期：令和2年8月22日（土）～9月13日（日）を予定）

第一線で活躍するアーティストが、市の資源（地域資源や人的資源など）を被写体に、メッセージ性の高い写真作品を制作し展示することで、観た人に多様な資源を持つ市の魅力を広く発信する。

（2）体験・創造ワークショップ

（会期：プレイベント 令和2年1月・2月、本イベント 令和2年4月中旬～9月13日（日）を予定）
本市で実施してきた体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を小学生のみならず大人の方も対象に開催する。

（3）伝統文化と新しい文化の発信（会期：7月26日（日）～8月9日（日）を予定）

日本庭園「見浜園」で、市民のみならず訪日外国人も含めた本市への来訪者の方々を対象に伝統文化と新しい文化を発信する。

①伝統文化の発信：本市ならではの伝統文化を担う千葉市文化連盟による伝統芸能の体験会や鑑賞会を開催する。

②新しい文化の発信：幕張メッセで始まったリサーチプロジェクト「METACITY」と連携し、光を使ったインスタレーション（展示空間全体をアート作品として表現すること）や回遊式のエキシビションなどを展開する。

⑩各ディレクターの選任

【総合ディレクター】 千葉大学 教育学部 芸術学研究室 准教授 神野 真吾

【ディレクター】 日本写真史研究家 粟生田 弓

【アートディレクター】 グラフィックデザイナー おおうち おさむ

2 事業内容

2-1 写真芸術展

①主旨：第一線で活躍するアーティストが、市の資源（市民・場所など）を被写体に、メッセージ性の高い写真作品を制作し展示する。

開催会場は、中央区と稲毛区とし、それぞれの地域において、文化芸術が発信される施設や魅力を体現する場所を各作家ごとに展示会場として選択し、それぞれで展示される作品のメッセージが観た人に伝わりやすいよう、展示空間を効果的に演出する。

②開催期間：令和2年8月22日（土）～令和2年9月13日（日）を予定

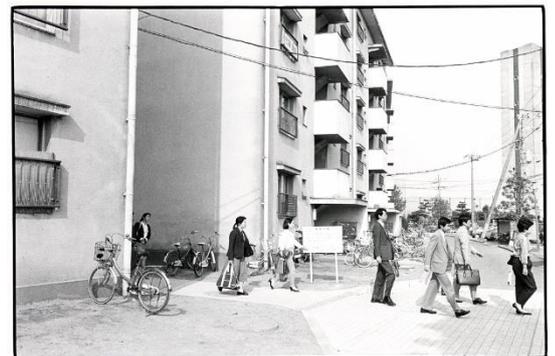
③展示会場候補

- ・中央区エリア：千葉市美術館、千葉市生涯学習センター、千葉公園（好日亭・蓮華亭）
- ・稲毛区エリア：千葉市民ギャラリー・いなげ、旧神谷伝兵衛稲毛別荘、千葉市ゆかりの家・いなげ

④参加作家候補 ※現在内諾している者（10人）

北井 一夫（きたい かずお）

1944年中国鞍山市生まれ、日本大学芸術学部写真学科中退。日本写真協会新人賞受賞。第一回木村伊兵衛写真賞受賞。日本写真協会作家賞受賞。写真展多数。主な写真集に「三里塚」「村へ」「新世界物語」「フナバシストーリー」「道」「流れ雲旅」など。



©北井一夫「フナバシストーリー」

佐藤 信太郎（さとう しんたろう）

1969年、東京に生まれる。1992年、東京総合写真専門学校卒業。1995年に早稲田大学第一文学部を卒業後、共同通信社に入社。2002年よりフリーの写真家として活動する。「土地の持つ性格や歴史、人の営みと、そこから現れる特有の雰囲気（ゲニウス・ロキ、地霊）」をテーマに、生き物のように変貌する都市を捉えた独特の作品を発表している。

2012年に林忠彦賞、2009年に千葉市芸術文化新人賞、日本写真協会賞新人賞を受賞。



© SATO Shintaro 「Geography」

本城 直季 (ほんじょう なおき)

1978年、東京都出身。東京工芸大学芸術学部写真学科卒業、同大学院芸術研究科メディアアート修了。

実在の風景を独特のジオラマ写真のように撮影した写真集『small planet』で2006年度木村伊兵衛賞を受賞し、一躍注目を集める。

4×5判カメラのあおり、空撮、世界へ及ぶ広範なロケ地選定など、構築的に積み重ねられた要素が現す視点が特徴的。



© Naoki Honjo 「東京 TOKYO 荒川区 2008」

蔵 真墨 (くら ますみ)

富山県生まれ。同志社大学文学部英文学科卒業。東京ビジュアルアーツ写真学科に学ぶ。2010年、第10回さがみはら写真新人奨励賞。

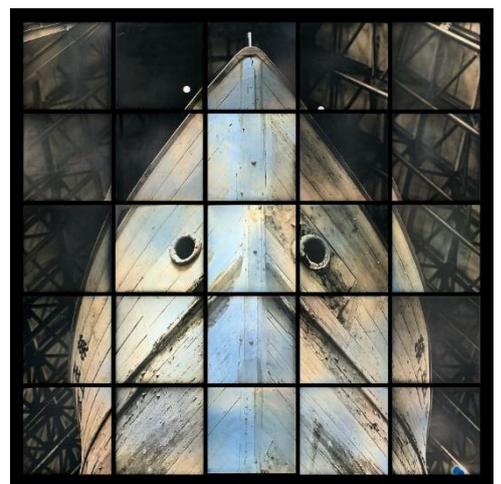
長年ストリートスナップで人物を撮影している。国内外で展覧会多数。作品は東京都写真美術館、サンフランシスコ近代美術館などに収蔵されている。近作「Men are Beautiful」は男性を被写体とする。



シリーズ「Men are Beautiful」より ©Masumi Kura

新井 卓 (あらい たかし)

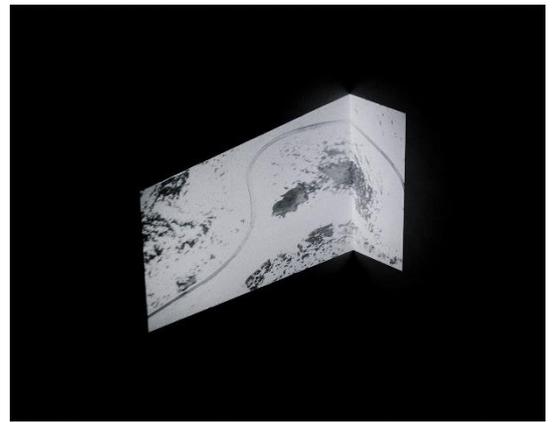
1978年神奈川県川崎市生まれ。写真の原点を探るうち最初期の写真術・ダゲレオタイプ（銀板写真）を知り、試行錯誤ののち同技法を習得。対象に出会ったときの感覚を、時間と空間を超えて、見るものに生々しく伝えることのできる<小さなモニュメント>として、自身のメディアとしてきた。近年は映画制作、執筆、環境史学共同研究のほか多岐にわたる活動を展開。2016年に第41回木村伊兵衛写真賞、2018年に映像詩『オシラ鏡』で第72回サレルノ国際映画祭短編映画部門最高賞ほか受賞多数。



© Takashi Arai

吉田 志穂 (よしだ しほ)

1992 年生まれ。2014 年「第 11 回写真 1_WALL」グランプリ受賞。主な個展に「第 11 回 shiseido art egg」展 (17 年、SHISEIDO GALLERY)「Quarry / ある石の話」(18 年、Yumiko Chiba Associates) など



©Shiho Yoshida, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

宇佐美 雅浩 (うさみ まさひろ)

1972 年千葉県千葉市生まれ。97 年武蔵野美術大学視覚伝達デザイン学科卒業。仏教絵画の「曼荼羅」の如く、中心人物と、その人物の世界を表現する物や人々を周囲に配置し、1 枚の写真に収める「Manda-la」プロジェクトを 20 年以上続けている。様々な地域を舞台に、リサーチや対話を重ねて制作されるその写真は、地域の歴史や社会をも映し出す。近年の主な展覧会に、2018 年「Manda-la in Cyprus」(Pafos2017, キプロス/ミヅマアートギャラリー、東京) など。



USAMI Masahiro
Hayashi Yuriko, Hiroshima 2014
Type C print
©USAMI Masahiro
Courtesy of Mizuma Art Gallery

横湯 久美 (よこゆ くみ)

横湯久美(美術家)は、第二次世界大戦を弾圧のもとで生き残った祖母の話を、20 世紀の民話のようなものとして捉えつつ、死者の声はもう聴けないのか、生き残った者は死者や過去とどのようにつき合うのか写真とテキストで探っている。

1966 年生まれ。東京藝術大学、The Slade School of Fine Art 修了。原爆の図丸木美術館にて個展開催。サンフランシスコ近代美術館所蔵 等



© 2013 Kumi Yokoyu

金川 晋吾 (かながわ しんご)

1981年京都府生まれ。神戸大学卒業。東京藝術大学大学院博士後期課程修了。三木淳賞、さがみはら写真新人奨励賞受賞。2016年青幻舎より「father」刊行。近年の主な展覧会としては、2019年「同じ別の生き物」アンスティチュ・フランセ、2018年「長い間」横浜市民ギャラリーあざみ野など。



©Kanagawa Shingo

檜橋 朝子 (ならはし あさこ)

1959年東京生れ。早稲田大学第二文学部美術専攻卒業。80年代半ばより写真活動を始め、03FOTOSを立ち上げる。国内外での個展、グループ展多数。写真集に「NU・E」「フニクリフニクラ」「half awake and half asleep in the water」「Ever After」など。日本写真協会新人賞、東川賞国内作家賞、写真の会賞受賞。



© Narahashi Asako

「海の記憶を伝える」アーカイブ写真展示

稲毛にはかつて「海気館」と呼ばれる洒落た旅館があり、森鷗外や田山花袋など著名な小説家などが訪れている。また、千葉県初の海水浴場として、多くの観光客が訪れ、貝の採取やのりの養殖も盛んで半農半漁の街としても知られていた。千葉市民ギャラリー・いなげでは、海辺の別荘地であった時代から海岸の埋立により大きく変化した現在までの稲毛の歴史を、当時の懐かしい生活風景の写真や実際に使われていた漁具などの展示等を行うことで、現代に蘇らせる。



藤川勇氏・撮影、藤川正男氏・提供

⑤主な参加作家候補と展示会場候補

展示作家	展示場所（案）	エリア
キタイ カズオ 北井 一夫	千葉市美術館（講堂）	中央区エリア
サトウ シンタロウ 佐藤 信太郎	千葉市美術館（さや堂ホール）	
ホンジョウ ナオキ 本城 直季	千葉市生涯学習センター（アトリウムガーデン）	
クラ マ スミ 蔵 真墨	千葉市生涯学習センター（ラウンジポケットパーク）	
アライ タカシ 新井 卓	千葉公園（好日亭）	
ヨシダ シホ 吉田 志穂	千葉公園（蓮華亭）	
ウ サ ミ マサヒロ 宇佐美 雅浩	未定	
ヨコユ クミ 横湯 久美	旧神谷伝兵衛稲毛別荘（1F）	稲毛区エリア
カナガワ シンゴ 金川 晋吾	旧神谷伝兵衛稲毛別荘（2F）	
ナラハシ アサコ 檜橋 朝子	千葉市ゆかりの家・いなげ	
アーカイブ展	千葉市民ギャラリー・いなげ（2F）	



写真展示（イメージ）



写真展示（イメージ）

2-2 体験・創造ワークショップ

①主旨：本市で開催してきた体験・創造ワークショップ「ななめな学校」を実施する。

千の葉の芸術祭で実施するにあたり、新たな取り組みとして、受講対象者に大人を加えたり、最先端の技術が学べる講座も取り入れる。また、1回限りのワークショップのほかに、複数回受講できるワークショップも開催し、講師とともに制作した作品を千の葉の芸術祭期間中に展示する。

ななめな学校とは・・・



「ななめな学校」公式ロゴデザイン

千葉市と市ゆかりのクリエイターで構成された千葉市メディア芸術振興事業実行委員会により、平成28年度から毎年度開催されているワークショップ。アーティストやデザイナーが先生となり、いつもとは違った「ななめな」ものの見方で新しい表現にチャレンジすることを目的としている。

【過去開催実績】

H28年度参加実績 延べ75人 H30年度参加実績 延べ441人
H29年度参加実績 延べ286人

②ワークショップ講座概要

■「ななめな学校 4」

開催日：令和2年1月11日（土）、12日（日） 場所：千葉市生涯学習センター

概要：1日限りのワークショップ。子供5講座、大人1講座開催。

【子ども向け講座】

- ・ガラスやプラスチック等の透明な素材を使って、光や空間を使いながら実験を行う。
- ・段ボールなどで立体作品を作ることを通して、立体表現を学ぶ。 など

【大人向け講座】

- ・「においとメッセージ」をテーマに、においと言葉やイメージとの関係性について思いを巡らせながら、自分だけのアロマスプレーを作る。

■「ななめな学校 METACITY 関連ワークショップ」

開催日：令和2年2月23日（日） 場所：幕張メッセ

概要：1日限りのワークショップ。1講座開催。

【子ども向け講座（案）】

- ・幕張メッセで始まったリサーチプロジェクト「METACITY」と連携し、テクノロジーアートなど最先端の技術が学べるワークショップを開催する。

■「ななめな学校 連続ワークショップシリーズ」

開催日：令和2年4月中旬から募集し5月中旬から順次開催 場所：千葉市生涯学習センター

概要：ワークショップを受講し、芸術祭期間中に作品を公開する。4講座開催予定（1講座につき4～5回連続して開催）。

【子ども向け講座（案）3講座を予定】

- ・映画映像分野で活躍する若手アーティストを講師に、撮影機材等を使って撮影する手法も学び、最後に映像として作品を発表する。 など

【大人向け講座（案）1講座を予定】

- ・写真芸術展に出展する作家を講師とし、自分が普段使っている機材等で撮影する手法を通して新しいものの見方や表現を学ぶ。最後にそれぞれが撮影した作品を展示する。

【過去に開催した講座の様子】

平成28年度「ななめな学校」の一部講座の風景

講座：音を感じてみよう、気持ちを音にしてみよう



講座：動きに合わせて光るコスチュームをつくってみよう



平成29年度「ななめな学校」の一部講座の風景

講座：おかしな「あそび」や「おもちゃ」を発明しよう。



講座：書写の道具でつくろう動物パラパラアニメ



平成30年度「ななめな学校」の一部講座の風景

講座：金属で作るカタチたち



講座：土×色 千葉の土で絵を描こう



2-3 伝統文化と新しい文化の発信

①主旨：東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会にあわせて、国内外から多くの方々が幕張メッセを訪れることが見込まれる。幕張メッセにほど近い日本庭園「見浜園」にて、市民のみならず来訪者の方々を対象に、伝統文化の発信として本市ならではの伝統芸能の鑑賞体験の場の提供や、新しい文化の発信として幕張メッセで始まった思考実験とプロトタイプを通して"ありうる都市"の形を探求するリサーチプロジェクト「METACITY」と連携して、光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションを展開する。

②開催会場：見浜園（幕張海浜公園）

幕張海浜公園内にある日本庭園。池泉回遊式庭園で、山や川、海、林などが表現され、四季折々の自然美が満喫できる。



園内風景



幕張海浜公園



茶室「松籟亭（しょうらいてい）」



園内風景

③それぞれの発信について

A：伝統文化の発信

(1) 本市ならではの伝統文化を担う千葉市文化連盟による伝統芸能の体験会や鑑賞会を開催する。

千葉市文化連盟とは・・・

千葉市で活動している各種の文化・芸術団体が統合し、昭和46年に発足。

現在は10団体（千葉市美術協会・千葉市邦楽舞文化協会・特定非営利活動法人千葉市音楽協会・千葉市郷土芸能保存協会・千葉市演劇連盟・千葉市茶道華道協会・千葉市俳句協会・千葉市川柳協会・千葉市吟剣詩舞道連盟・千葉市短歌協会）が加盟し、千葉市での各種文化・芸術団体と相互理解とともに、優れた文化芸術鑑賞の場や機会の提供を目的に活動を行っている。代表的な活動として、「美術」「音楽」「演劇」「伝統芸能」「茶道華道」「文芸」の6分野からなる市民芸術祭を毎年度開催しており、令和元年度で第49回を迎える。

(2) 開催日時 令和2年8月1日（土）・2日（日） 10時～15時 予定

(3) 会 場 茶室「松籟亭」、パークセンター内休憩室 予定

(4) 実施内容

千葉市文化連盟に加盟する団体が、訪日外国人も対象にそれぞれの分野で体験会や鑑賞会を開催し、本市で育まれた文化を体験・鑑賞してもらう。

【例：休憩室や茶室を会場に、生け花体験やお茶会の開催 など】



イメージ写真



イメージ写真



イメージ写真

B：新しい文化の発信

(1) 幕張メッセで始まったリサーチプロジェクト「METACITY」と連携して、見浜園庭園を中心に光を使ったインスタレーションや回遊式のエキシビションを展開する。

METACITY

2019年1月に、未来型の国際業務都市を目指す幕張新都心の先導的中核施設である幕張メッセで始まった、思考実験とプロトタイピングを通して「ありえる都市」の形を探求するリサーチプロジェクト。都市に関わる専門家だけでなく、問題を発見して問題提起するアーティストや研究者、その問題の解決策を探求するデザイナー、解決策を具現化する技術者、住人の視点から発言する地域コミュニティ、継続的実行方法を模索する企業や行政など、さまざまな視点とスキルを持つステークホルダーを巻き込みながらの活動を目指している。

【活動実績】

2019年1月18日～19日に幕張メッセにてカンファレンス、アートエキシビション、ワークショップなどをメインとしたイベントを開催 (参考：<https://metacity.jp/>)

(2) 開催日時 令和2年7月26日(日)～8月9日(日) 18時～22時 予定

(3) 会 場 「見浜園」庭園内、茶室「松籟亭」 予定

(4) イベントテーマについて

【テーマ「種」】

市の花「大賀ハス」は、千葉市で発掘された古代ハスの「種」が開花したことで現代に復活した。

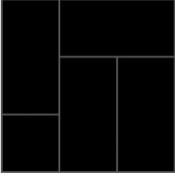
また、海外でも人気が高い日本文化「茶」の起源は平安時代の僧である最澄が唐(中国)より、茶の「種」を持ち帰り比叡山のふもとに植えたのが茶の始まりと言われている。

一方、「種」とは植物や生物の種という意味だけでなく、すべての始まりを象徴する言葉でもある。

METACITYは、千の葉の芸術祭と連携して実施する本イベントを通して、幕張新都心が新たに生まれ変わるような「種」を日本の伝統文化の象徴とも言える「茶の湯」を通して表現することで、皆様に千葉市における未来の「ありえる都市」について体感・検証いただくきっかけとなることを目指している。また、まいた「種」がこの幕張新都心を起点として千葉市で成長し続けるような活動を今後も展開していく予定。

(5) メインアーティストの紹介

アート集団「The TEA-ROOM」

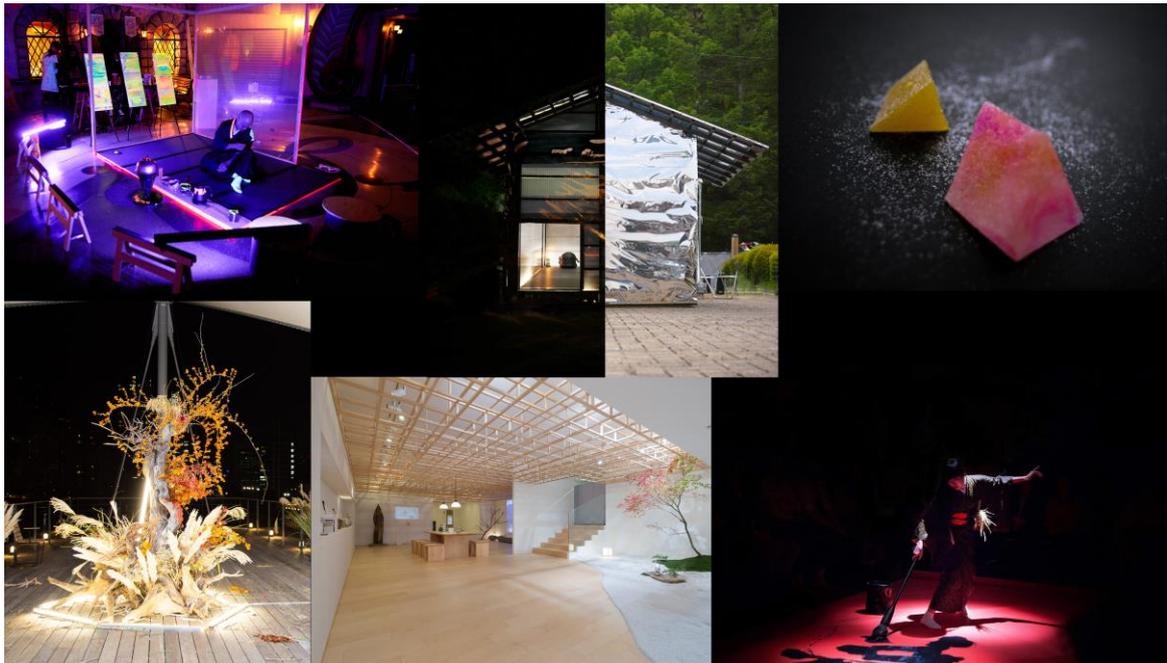


The TEA-ROOM は、新たな茶の湯のあり方を探求するアート集団。

茶の湯を庭、建築、絵、書、香、華、音、器、食、衣、礼で構成される日本の総合芸術として捉え、そのコンセプトをテクノロジーやストリートカルチャーなど現代的に翻訳し、新たな空間の設計や体験のプロデュース、アート作品の制作を行う。

現在は、茶人の**松村宗亮**、和菓子作家の**坂本紫穂**、建築家の**佐野文彦**、書道家の**万美**、陶芸家の**横山玄太郎**、華道家の**萩原亮太**が所属し、ディレクターをコンセプトデザイナー/社会彫刻家の**青木竜太**が担う。

2016年に銀座ソニービルのショールームで空間設計や演出を担当。人気音楽フェス「TAICOCLUB」や、サンリオピューロランドのオールナイト音楽イベントでオリジナルの光る茶室を制作し茶会を開催。2018年には隈研吾氏監修の船上スペース T-Lotus を貸し切り海外VIP向けの体験イベントをプロデュースするなど様々な分野で新たな茶の湯の形を展開。2019年より大型メディアアート作品の制作を開始するなど新たな表現にも挑戦する。



【The TEA-ROOM 実績写真】

(6) 具体的な展開 (案)

1. 見浜園内で、空間として世界最大級の「茶室」を光で表現
2. 「種」をテーマとした茶会の開催
3. 「種」の意味を想起させる展示とライトアップ

【1のイメージ】

世界最大級の「光の茶室」



【2のイメージ】

茶会の開催



【3のイメージ】

千葉市の古代ハスの種のストーリーを繋ぎながら、様々にある「種」の意味を想起させる展示を回遊式で開催。各展示作品は見浜園の景観の中に溶け込ませながらも、ライトアップにより光の演出を行う。

回遊図（案）



3 市内の企画イベントとの連携

会期中に開催される千葉市文化振興財団や千葉市美術館の主催する企画やイベントを文化プログラムとして推進し、千の葉の芸術祭と広報等での連携を図りながら、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に合わせて、市内の文化芸術の魅力を広く発信する。

①開催予定の企画やイベント

- ・リニューアル・オープン記念 開館25周年記念
「ジャポニスムー世界を魅了した浮世絵」展

主催：公益財団法人千葉市教育振興財団（千葉市美術館）

事業内容：2020年7月11日(土)～9月6日(日)

西洋の芸術家たちは、浮世絵に出会った時、何を新しいと感じ、感動し、自らの芸術に取り入れようとしたのか。浮世絵に影響を受けた19世紀末～20世紀初頭のジャポニスムの西洋絵画や版画を通して、あらためて浮世絵表現の特性と魅力を探る千葉市美術館ならではの企画。国内外から出品される名品約200点で構成。



葛飾北斎《富嶽三十六景 神奈川沖浪裏》大判錦絵
天保2-4年(1831-33)頃
千葉市美術館蔵

- ・「ベイサイドジャズ2020千葉」デモンストレーション

主催：公益財団法人千葉市文化振興財団・ベイサイドジャズ千葉実行委員会

事業内容：ベイサイドジャズ千葉は、千葉市の姉妹都市モントルー市（スイス）で行われている「モントルー・ジャズ・フェスティバル」のようなジャズ祭を千葉市で開催し、ジャズで街に活気とにぎわいをもたらすため、1998年にスタートし、2020年で23回目を迎える。

7月から9月にかけて、プロ・アマによる全10回のジャズライブを中央地区・海浜幕張地区で開催する。



- ・「市民創作ミュージカル本番公演」

主催：公益財団法人千葉市文化振興財団・千葉市民創作ミュージカル実行委員会

事業内容：千葉を題材としたオリジナルミュージカルの上演を目指し原作募集を行い大賞に選ばれた「千年天女」（高平九・作）を元にした「千葉市民創作ミュージカル」を2020年6月28日に開催する。

会場は、車椅子スペース、コミュニケーションボードや筆談器等もあり、バリアフリー設備を整えている。



- ・「伝統芸能まつり」

主催：公益財団法人千葉市文化振興財団

事業内容：伝統芸能まつりは、邦楽コンサート、千葉の民話、茶会やいけばな体験など、千葉市文化センター3階アートホールほかの施設で1日まるごと伝統芸能を楽しめるイベントとして、7月18日（土）に開催する。

また、外国から観光等で来日している方々にも伝統芸能に親しんでいただけるよう、開催当日でも参加体験ができる情報を英文のチラシやポスターを作成しPRする予定。



4 広報について

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を見据え、訪日外国人もターゲットとした広報展開を図る。また、市内のみならず、開催地周辺の認知を高めるため、周辺自治体向けの各種広報も検討する。

①広報媒体

ホームページや SNS 等を活用し、効果的に情報を発信する。特に、幕張メッセ周辺の宿泊施設等には積極的な広報展開を図る予定。

- ・「千の葉の芸術祭」公式ホームページ ※3月ごろ公開予定
- ・SNS での発信（フェイスブックやツイッターなど）
- ・チラシ、ポスター
- ・無料ガイドブック

○公式ホームページについて

写真芸術展に関する情報やワークショップ募集情報、イベント開催情報などを発信する。

参加アーティストの情報や展示作品の紹介、周遊ルート、近隣のイベント情報など、市の魅力を効果的に発信できるようにする。

○無料ガイドブックについて

芸術祭の作品等の見どころのご紹介以外に、各会場のマップやお勧めの周遊ルートなど、芸術作品を鑑賞しながら市内の魅力を体験できるような内容を掲載する。

②多言語化について

無料ガイドブックや展示作品のキャプションなど、日本語表記と英語表記等を行う。

③屋外広告の活用について

海浜幕張近辺を運行するバスや千葉都市モノレールの車両に、市の資源の発信として、千葉市美術館が世界に誇る浮世絵コレクションをデザインしたラッピング広告を実施する。

5 観覧料等について

- ①写真芸術展：観覧料無料
- ②ワークショップ：事前申し込みの上、参加費を徴収
- ③伝統文化と新しい文化の発信：見浜園の庭園観覧及び屋外展示作品の観覧料無料。(通常かかる入園料は発生しない) ただし体験イベントは参加費を徴収予定。

6 輸送交通について

市内外からの来場者が、円滑に各会場までアクセスできるよう、適切な情報発信を図る。

①会場の案内について

無料ガイドブックや公式ホームページにて、マップや効果的な周遊ルートに掲載する。
また、適宜、関係各所の許可を得た上で、案内板やのぼり旗等を設置する。

②交通機関について

公共交通機関等を活用しての周遊ルートを無料ガイドブックや公式ホームページに掲載する。
また、タクシーを利用される方も一定数いることを想定し、千葉県タクシー協会に千の葉の芸術祭の開催について事前に情報提供を行う。

7 運営支援・市民参加

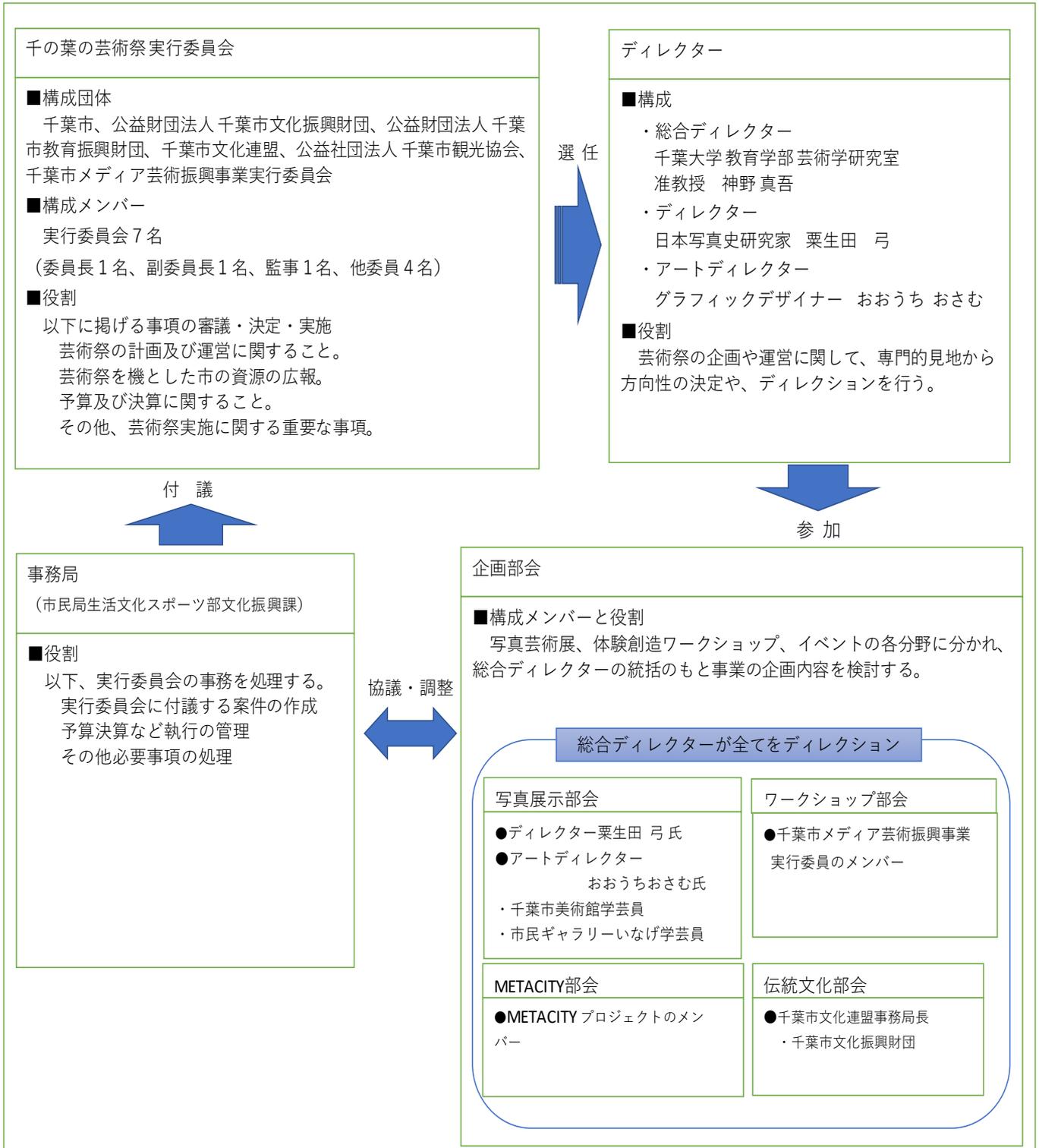
市民の皆様へボランティアとしての参加を呼びかけ、主体的な活躍を期待するとともに、千葉市観光協会と連携し、登録観光ボランティアの活躍の場も設ける。

また、個人や市内で活躍される企業を中心に協賛等の協力依頼を検討する。

8 各種マークの申請

「第2次千葉市文化芸術振興計画」の重点プロジェクト「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術施策の発信強化」に基づいて「千の葉の芸術祭」を開催するため、beyond2020プログラム(認証組織:文化庁等)や「日本博」参画プロジェクト(認証組織:独立行政法人日本芸術文化振興会)の認証の申請を行う。

9 実施体制について



総合ディレクター 神野真吾



千葉大学 教育学部 芸術学研究室 准教授

(1) 千葉市とのかかわり

- ・千葉市文化芸術振興会議 委員長
- ・千葉市ナイトタイムエコノミー推進審議会 委員長
- ・千葉市美術館アウトリーチプログラム「千葉アートネットワーク・プロジェクト (WiCAN)」代表

(2) その他のアート関係の役職

- ・国立美術館の教育普及事業等に関する委員会 委員
- ・東京大学「社会を指向するアートマネジメント人材育成事業」AMSEA 副代表
- ・角川武蔵野ミュージアム ボードメンバー (アート担当)

ディレクター 粟生田弓



日本写真史研究家

1980年東京都生まれ。

2009年4月株式会社リヴォラをデザイナーと共に設立。ファッションブランドRIVORAを運営する。また、東京大学情報学環特任助教(文化庁 大学における文化芸術推進事業 付)に携わる(2017～2019年)。著書に『写真をアートにした男 石原悦郎とツァイト・フォト・サロン』(小学館)、編著に『1985/写真がアートになったとき』(青弓社)。写真やアートに関する執筆を行う。

アートディレクター おおうちおさむ



グラフィックデザイナー

1971年生まれ、千葉市稲毛区で育つ。多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒。

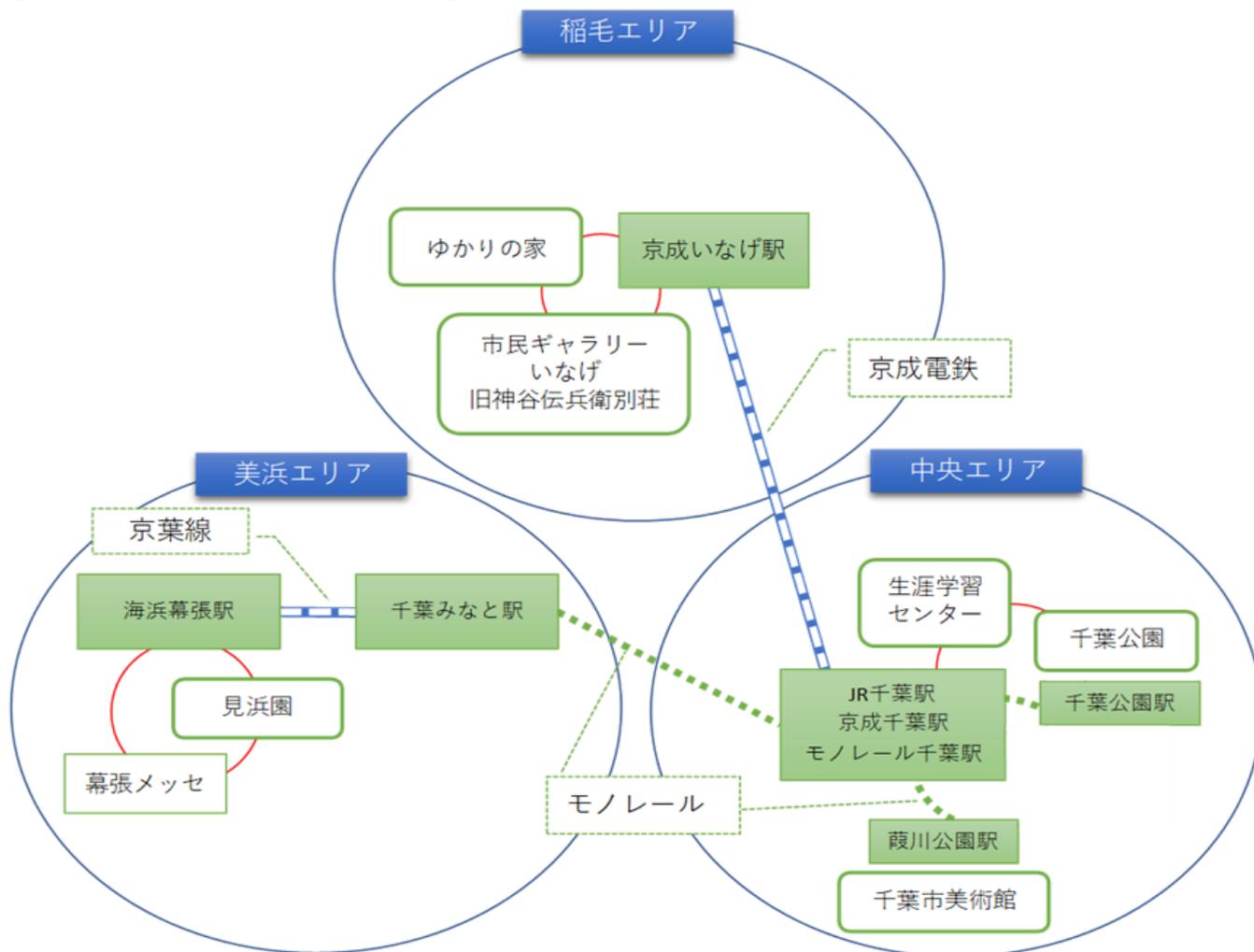
(故) 田中一光に師事し、2003年7月7日に有限会社ナノナノグラフィックスを設立。

平面と空間の相乗効果を創作の軸に置き、グラフィックからスペースデザインまで幅広い活動を展開。国内外問わず著名写真家やアーティストのデザインを手がけている。

10 スケジュールについて

		令和元年度				令和2年度				
		3月	4月~9月	10月	11月~12月	1月~3月	4月~6月	7月	8月	9月
計画			基本計画書策定	基本計画書発表	実施計画書策定	実施計画書発表		千の葉の芸術祭 本イベント期間		
実行委員会	委員会設立	実行委員会による事業推進								
写真芸術展	現地視察		作家交渉・作品制作・実施準備						8/22 ~9/13 作品展示	
体験・創造			【1月・2月実施ワークショップ】 企画・調整・募集		千の葉の芸術祭 プレイベント WS開催	募集告知	連続WS実施		8月 ~9/13 WSで制作した作品展示	
文化の発信	現地視察				作品制作・実施準備			7/26~8/9 体験鑑賞イベント開催		
広報					芸術祭WEB公開・情報発信					
					事業周知宣伝 (プレスリリース等)					
					印刷物等による 広報PR					

【参考：千の葉の芸術祭展開イメージ】



千葉市美術館	円柱が並ぶネオ・ルネサンス様式の空間である1Fさや堂ホールと、中央区内が一望できる9F講堂を写真展示会場として使用。令和2年7月にリニューアルオープンを予定しており、リニューアル後の第1回目の企画展として「ジャポニスムー世界を魅了した浮世絵」展を開催。（開催期間：令和2年7月11日～9月6日）
千葉市生涯学習センター	ホールや研修室、スタジオ等があり、多くの市民が日常的に利用する生涯学習センターの1Fアトリウムガーデン、B1Fラウンジポケットパークを写真展示会場として使用。ワークショップ「ななめな学校」で製作した作品を展示する場所としても活用。
千葉公園	都心部にありながら緑豊かで市民の憩いの場である千葉公園内の蓮華亭（オオガハスの展示資料館）と好日亭（茶室）を写真展示会場として使用。
千葉市民ギャラリー・いなげ	地域のアートの拠点であり、地域と密着したイベントも多数開催する市民ギャラリーいなげの2Fを写真展示会場として使用。
旧神谷伝兵衛稲毛別荘	浅草の神谷バーや茨城の牛久シャトーの創設者「日本のワイン王・神谷伝兵衛」が大正7年に別荘として建て、稲毛が海辺の保養地だった頃の記憶を物語る建物として価値がある洋館の1・2Fを写真展示会場として使用。
千葉市ゆかりの家・いなげ	保養地としての稲毛の歴史を今に伝える貴重な和風別荘建築である「ゆかりの家」を写真展示会場として使用。昭和12年には、中国清朝のラストエンペラー愛新覚羅溥儀の実弟である溥傑と妻・浩が、半年ほどこちらに居を構え、新婚生活を送った。
見浜園	幕張海浜公園内にある日本庭園。池泉回遊式庭園で、山や川、海、林などが表現され、四季折々の自然美が満喫できる。伝統文化と新しい文化を発信するイベントで庭園内、茶室「松籟亭」などを使用。